

くす通信

第115号
2010年8月1日

国立病院機構 熊本医療センター発行

たいじょうほうしん 带状疱疹について



朝顔

目：ナス目 Solanales
科：ヒルガオ科 Convolvulaceae
属：サツマイモ属 Ipomoea
種：アサガオ I. nil

「くす(樟)」の由来について

くす(樟)は常緑の広葉樹で、熊本城内に多く見られます。種々の精油成分を含み、良い香りがします。樟脳をはじめ色々な薬用成分が抽出されるなど有用な薬用樹でもあります。

また、くすし(薬師)とは、医師のことを指し、くすしぶみ(薬師書)は医術に関する書物のことを言います。

本誌はこの「くす」にあやかり、健康な生活を送るために情報を提供しております。お気軽にお読み下さい。

带状疱疹の治療薬について

薬剤師 川上 恵子

带状疱疹の治療には抗ウイルス薬を使用します。使用するお薬は症状・からだの状態にあわせて選択されます。通常内服で治療を行い、重症の方、重症になりやすい免疫力の低い方では入院で点滴による治療を行います。また、皮膚の水疱に対して抗ウイルス薬の軟膏を塗布します。

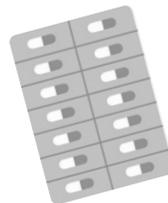
抗ウイルス薬にはアシクロビル(アシクロビル®注、ゾピラックス®錠)、バラシクロビル(バルトレックス®錠)、ビダラビン(ビダラビン®軟膏)などがあり、いずれもウイルスに選択的に作用します。副作用が少ないことが特徴として挙げられますが、まれに眠気、吐き気や腹痛などの症状が出る場合があります。腎機能の低下している方、高齢の方では薬の量を減らしたり、服用する間隔をあけたりする場合があります。内服する際は多めの水で服用し、水分補給をこころがけてください。また、のみあわせの悪い薬もあるので注意が必要です。

抗ウイルス薬は、感染している細胞でウイルスの増殖を抑えます。ウイルスを殺すお薬ではないため、症状がすぐによくなるわけではありません。効果がないと思い、服用を途中でやめてしまうと症状の悪化を招くことがあります。決められた量、期間を守って服用することが大切です。

抗ウイルス薬による治療を開始してからも、带状疱疹の痛みは持続し、増強することがあります。そ

のため、ウイルス増殖抑制の治療と同時に痛みを和らげ、コントロールしていきます。水疱に伴う急性期の痛みに対しては、アセトアミノフェン(カロナール®錠・細粒・シロップ)やロキソプロフェン(ロキソプロフェン®錠)などの消炎鎮痛薬を服用します。また、神経痛にはメコバラミン(メチコバル®錠)などのビタミンB12製剤が用いられます。带状疱疹の皮膚症状が回復した後も残る神経痛がしばしば問題とされます。これを「带状疱疹後神経痛」といい、高齢の方、重症の方で神経痛が残りやすく、より早期からの抗ウイルス薬治療が予防策となります。2010年6月、带状疱疹後神経痛のための治療薬、プレガバリン(リリカ®カプセル)が発売されました。神経の過剰興奮をおさえて鎮痛作用を示し、今までの疼痛治療薬とは異なる作用メカニズムをもつ薬で、その有効性が期待されます。

带状疱疹を発症したら1週間ほどは安静を心がけ、免疫機能を高めることが大切です。ウイルス活化の初期ほど薬の効果も大きいので、神経痛(ピリピリした痛み)・皮膚症状(紅斑や水疱)などの带状疱疹と思われる症状に気がいたら、早めに皮膚科を受診してください。また、お薬について疑問に思うことがあれば、薬剤師へご相談下さい。



診療科

- 総合医療センター 総合診療科、血液内科、呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科
- 消化器病センター 消化器内科
- 心臓血管センター 循環器内科、心臓血管外科、
- 脳神経センター 脳神経外科、神経内科、
- 感覚器センター 眼科、耳鼻いんこう科、皮膚科、
- 画像診断・治療センター 放射線科、
- 救命救急センター 救急科
- 精神神経科、 ■ 小児科 ■ 外科 ■ 整形外科
- リハビリテーション科 ■ 泌尿器科 ■ 産婦人科
- 歯科口腔外科 ■ 形成外科 ■ 麻酔科 ■ 病理診断科



皮膚科は医師3名で診療しています。午前中は外来診療、外来手術、他科入院中の患者さんの診察、往診などを行い、午後は手術室での手術や皮膚科入院患者さんの診察、処置を行っています。

皮膚科の入院は、帯状疱疹【たいじょうほうしん】や蜂窩織炎【ほうかしきえん】など感染症、薬疹などアレルギー、皮膚腫瘍【ひふしゅよう】や皮膚潰瘍【ひふかいよう】での手術が必要な方を主に受け入れています。

また、他科入院患者さんの褥瘡【じょくそう】に対する治療も行っています。褥瘡は処置だけでなく、栄養状態の改善や、褥瘡に圧迫が加わらないよう体位を調整したりする必要があり、月2回褥瘡回診を行ってコメディカルスタッフとともに検討、治療しています。

たいじょうほうしん

帯状疱疹について



皮膚科医長
浅尾 香恵

帯状疱疹とは身体の一部、左右どちらか一方に、赤い発疹（紅斑）と小さな水ぶくれ（水疱）ができて痛みを伴う病気、いわゆる「ヘルペス」です。5～6人に1人の割合で罹るといわれており、60歳代を中心に高齢者に多くみられますが、すべての年代でおこります。

原因

帯状疱疹は「水痘帯状疱疹ウイルス」の感染症です。初めてこのウイルスに感染したとき（初感染）は水ぼうそう（水痘）として発病します。水ぼうそうが治ったあともウイルスは身体の中の神経節に少数残っています（潜伏感染）。その後、加齢やストレス、過労などにより免疫力が低下した状態になると、神経節に潜んでいたウイルスが増殖して活動をはじめ、神経を伝って皮膚に広がり、帯状疱疹を発病します（再帰感染）。水痘、帯状疱疹ともに通常一生に一度しか罹りません。

症状

発疹が出る数日～1週間前から違和感やピリピリ感など神経痛から始まることが多いです。その後、紅斑と水疱など皮膚症状がでます。発熱がみられることもあります。頭から足までどの部分でもおこりますが身体の神経は左右で異なるため、どちらか一方のみです。水疱は膿みを持ったようになり、皮むけの状態からかさぶたになって、2～3週間で治ります。神経の回復は皮膚よりも遅く、皮膚が治ったあとも神経痛が残ることがあります。

治療

抗ウイルス剤を使用します。水痘帯状疱疹ウイルスを殺す薬ではなく増殖を抑える作用で、炎症のピークを抑えます。ウイルスが増えきってしまう前に、診断がついたらできるだけ早めに治療を始めます。点滴または内服薬です。治療を始めた後も数日は発疹が広がるのですが、効いていないということではありません。痛み対しては鎮痛剤を内服し、夜間は坐薬を使用することもあります。

生活の注意点

帯状疱疹は過去に水ぼうそうに罹った人にうつることはありません。水ぼうそうに罹ったことのない人に接触すると、水ぼうそうとしてうつる場合があります。神経痛は冷えると悪化することが多いのでお風呂やシャワーで温め、痛みが強いときに蒸しタオルなどで温めるのも効果的です。お風呂のときは発疹の部分も石鹸をつけて洗い、軟膏を塗ります。

帯状疱疹は体力と免疫力が低下しているときに発病するので1週間程度はしっかり栄養と休養をとることが大切です。

- 🕒 診療時間 8:30～17:00
- 🕒 受付時間 8:15～11:00
- 🕒 休診日 土・日曜日および祝日

急患はいつでも受け付けます

〒860-0008 熊本市二の丸1-5
TEL 096 (353) 6501 (代表)
FAX 096 (325) 2519
HP <http://www.nho-kumamoto.jp/>